

経営計画書



よつば保育園 2020.5 開園

2021-2030 年度

特定非営利活動法人 女性と子の未来

<https://jyoeitokonomirai.org/>

目次

1. 経営計画 第1次差し替えについて・・・2
2. 私の決意・・・4
3. 経営理念・・・5
4. 経営基本方針・・・6
5. 経営ビジョン・・・7
6. 創業のルーツ・・・9

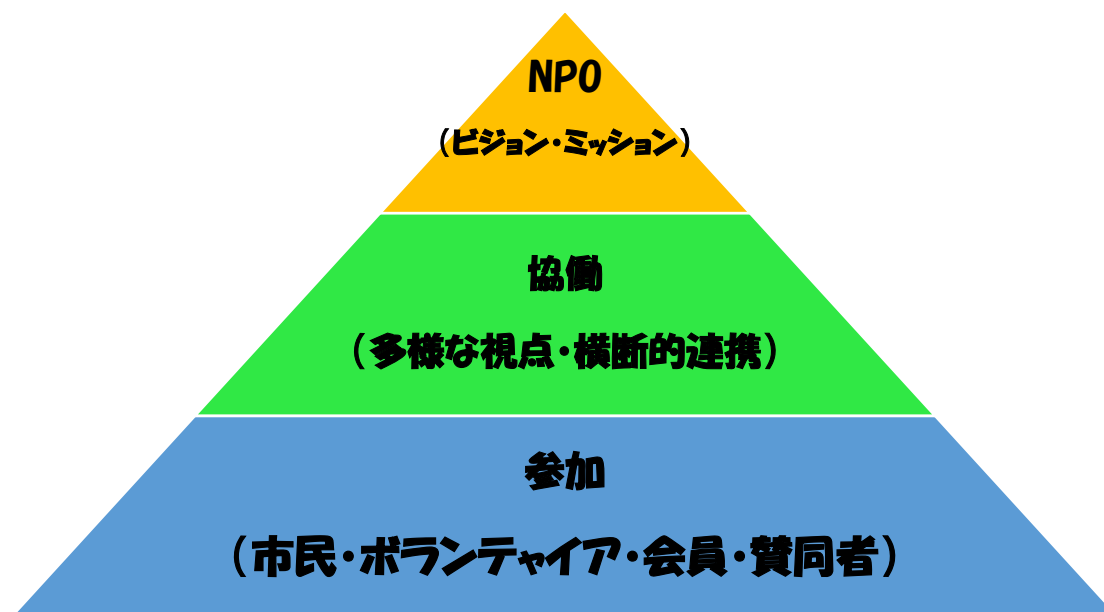
1. 経営計画 第1次改訂に際して

NPOは、市民との協働体です。NPOは、市民ニーズをしっかりと捉え、市民ニーズに応えていく“感性と行動力”が求められています。

特定非営利活動法人 女性と子の未来は、此処に経営計画を表し、市民ニーズに応えて行くべく、これまで行ってきた事業の革新を進めて参ります。

これまで当団体は、女性の悩み等にお応えすべく「女性相談事業」を行っているほか、女性たちのステップ・アップのため、各種講座を展開して参りました。2020年5月には、女性の活動・就労の支援のため、“3歳未満児の保育園”として、「よつば保育園」開園いたしました。「よつば保育園」では、保護者の就労を支えることと、子どもの感性を育くみ、笑顔一杯のお子様の育みを目標としております。

これからも、「女性と子の未来」は、夢や希望に向かう伴走者として、市民との一層の協働を日々努めていきたいと願っております。



ゆえに、此処に、2021年度からの経営計画書を、皆様のお手元にお届け致します。NPOの発展は、市民との協働理念と活動が共に息づいていくことに他なりません。

NPOとして、市民ニーズと一体となった組織運営を行って参ります。私たちは、共に行動するパートナーを求めています。市民のお声は、ホームページを通して、メールを通してお寄せください。直接のお電話も歓迎いたします。

経営計画書の第1次改訂は、当団体の進むべき目標を明らかにして、市民との協働で、着実に実行して参ります。

経営計画を告知する活動が、市民はじめ、関係機関との良好なる発展につながっていくものと確信いたしております。

設計図無しで建物を建築することが有るでしょうか？ 私たちは、「目標達成」という建物を完成させるためにも、経営計画書は協働関係の確立のための設計書でも有ります。

NPOは事業体です。NPO法人「女性と子の未来」は経営計画書を通して、当団体の目指す“セーフティーネットが生きる・笑顔はじける地域づくり”に貢献して参ります。また、“夢や希望に向かう伴走者”として、“広がる安心感・支えあいの優しさの街”を創るため、市民の皆様の助言・叱咤激励・苦情などお寄せいただきたく存じます。

「苦情は、私どもの宝」です。忌憚無きご意見をお寄せください。皆様との協働の第一歩として、この経営計画の道標として参ります。

2021.6.1

特定非営利活動法人 女性と子の未来
理事長 若菜 多摩英

2. 私の決意

1. 経営者として、右腕（パートナー）を見出し、市民との協働事業を拡げます！

- 市民との信頼を築き、協働・パートナーシップを拡げ、ニーズに柔軟に取り組める組織集団を創ります！
- 笑い合えるコミュニティー（幸せの揺り籠）を拡げます！

2. 経営者として、“認定 NPO 法人化”を達成し、財政基盤の強化を図ります！

- 寄付行為に対し国税・地方税の免税制度を生かして、多様なニーズに迅速に取り組める財源の確保を目指します！

3. 経営者として、組織基盤の強化を図ります。

- スタッフには、チャレンジの同志として、“自己の・成りたい私への挑戦”を支える役割を果たします！
- 志を抱き、チャレンジ出来る心に寄り添います。

2021.6.1

特定非営利活動法人 女性と子の未来

3. 経営理念

創造性

- 一、私たちは、夢や希望に向かう伴走者として、
倖せに包まれた人生を創造します。

【説明】

悩みを抱えるママやパパらが子どもと一緒に、夢に向かって歩けるように、それぞれが幸せな人生が歩めるように寄り添った支援を行っていきます。

利他性

- 一、私たちは、みんな大好きな幸せな“揺り籠”となり、
笑顔弾ける地域づくりに貢献します。

【説明】

私たちの法人が、地域の子供からお年寄りまで幸せな笑顔がはじけるように、地域の揺り籠となって地域に貢献していきます。

人間性

- 一、私たちは、多様性を認め合い、誇りと連帯感を育て、
“豊かな未来”を拓きます。

【説明】

お互いの培った経験を生かし合って、青いキャンパス（空）に、豊かな未来の虹を広げ、ワクワクできる職場を創ります。

4. 経営基本方針

1. 一人一人のスタッフの心に寄り添い、笑顔溢れる明るい職場を創ります。
2. お互いを認め・支え合うエネルギー溢れたスタッフが、地域の安全・安心の“揺り籠”を拡げます。
3. 市場で賄えない“介護や子育てのきめ細かいサービス”を開拓し、ゆとりある暮らしの実現に努めます。
4. 繋がる安心感・支え合いの優しさの街を創ります。
5. 夢の実現に向けたチャレンジで、元気澁漑の笑顔を拡げます。

5. 経営ビジョン

行政のサービスは、ナショナルミニマムであり、最小にして最低限です。特定非営利活動法人 女性と子の未来は、

① 受益者の特性に鑑み、個別性・先進性・市民との協働性を以て、サービス提供者と受益者間に対等・平等であるの理念で活動を進めます。

② 関係者や関係機関との協議・連携をベースに、事業の先進性・開拓性を追求します。

③ 現在の女性相談事業・交流事業、3歳未満児の保育事業に加えて、新たに、シングルマザーや高齢者・介護を必要とする方の支援と住まいの提供事業を加え、女性や子どもたちのあらゆる世代を対象とした暮らしの“安全・安心の地域の揺り籠” 拡げます。

I 揺り籠 第1期事業展開（2021-2022）

- ① 定員12名の小規模保育の保育園の乳幼児の定員確保で、財政運営の基盤の回復・強化を実現させる・・・前期5年間集中期間で、借入金 of 全額返済。
- ② 女性団体・グループ等への連携活動・情報共有で、中間支援団体として、サポーター機能を発揮する。発達障がい児のママ支援、ダブルケア（子育てと介護）の女性たち活動団体との連携強化・情報共有と広報宣伝の強化を進める。

II 揺り籠 第2期事業展開（2023-2026）

1. 衣・食・住（生活3要素）住の確保・提供

住宅セーフティネット

- ① 花巻市内に住宅セーフティネット
（住宅セーフティネットの家賃は、生保基準の凡そ3万—3万3千円程度）は、シングルマザー他、自力で住居確保困難な女性と子の住まいを提供する。相談者の安全確保等（保険加入し、単身者の自損・家賃滞納にも対処出来る住まい）
- ② 離婚（夫婦間の関係悪化による離婚等）、家庭不和（長年の家族間の人間関係の悪循環のケースが多い）やDVの二次被害から救いを求める相談者の安全確保と住まいを提供する。

Ⅲ 揺り籠 第3期事業展開（2027-2030）

ホーム・ヘルプサービス事業の展開

- ① 仕事を求めるシェアハウスの入居者等の方々に、ヘルパー資格の資格取得を支援し、暮らしの安定を図る。
- ② 女性と子の未来は、増え続ける介護を要する方々が住み慣れた自宅或いは、介護施設で暮らす高齢者に、ヘルパーを適宜派遣し、ヘルパー及び高齢者の双方の生活の安定を維持・継続できるサービスを展開する。

6. 創業のルーツ：東日本大震災

現在の活動に至った経緯を振り返ると、定年2年後、岩手・花巻に移住した私は、東日本大震災に遭遇した。当時、花巻のNPOネットワーク団体の理事で居たことを契機に、助産師の妊産婦への支援の要請を受けた理事会としては、当時、行政経験が有り、唯一の女性理事だった私に事務局長の役が回ってきた。私は、花巻市民活動ネットワーク協議会の要請を受けて、国の災害救助法を活用した“産後ケア事業”を助産師会と家事ボランティアさんとの三者共同事業として、2011.4.1付でスタートした。



被災妊産婦ケア事業

県内各市町村や県立・私立の産科病院等医療機関などとのネットワークを作ったのは、元、県の部長さんで、その下、事務局長として、若菜が就き、佐藤氏をリーダーに助産師さん方と市内外のボランティアさん方との“被災妊産婦ケア事業”に携わった。笑顔で生後1か月の子どもを胸に抱いて被災地に帰られる産婦さん7人（全員、男の赤ちゃん）を見送って、4月から8月中旬まで行ったケア事業は終息した。

が、しかし被災地に戻った彼女たちの一人から、SOSが入った。当時はまだ、店舗の再建など地域の環境整備が間に合わず、また、大半の保健師さん方の手が高齢者のケアに取られ、妊産婦ケアには中々人が回らない状況でした。

そこで、日本 NPO センターの支援や、岩手県や釜石の社会福祉協議会、県立釜石病院や県臨床心理士会の臨床心理士の支援等を受け、行政と民間の蜜なる協力体制も確保でき、活動を行って来た。が、被災地での支援事業 2011.9-2018.6 で終止符を打ち、花巻に戻った。この間の経験をベースに、花巻でも女性支援活動を少しずつ進めていたが、これら活動の体験が、今の「女性と子の未来」の NPO 活動に繋がっています。